

分担研究課題 結核菌の薬剤耐性全国サーベイ 資料

2. 肺非結核性抗酸菌症の外科療法に対する検討

研究協力者 中島 由槻 結核予防会複十字病院副院長

【目的】

肺非結核性抗酸菌症の治療は、近年クラリスロマイシン等が内科的治療に標準的に用いられるようになってきたが、その長期的治療成績はまだ明らかでなく外科的治療の役割は大きいものと考えられる。非結核性抗酸菌症に対して行われている外科療法の現況を明らかにし、手術適応の決定、術式選択を明らかにする目的で検討を加えた

【対象】

1985年～2000年までに16年間に療研所属の11施設で肺非結核性抗酸菌症に対して行われた外科療法のうちアンケートが回収された症例を対象とした。

【成績】

1. 年齢分布

症例は男性44例、女性44例の計88例で平均年齢は53.3±11.9歳（20～76歳）であった。（図1）

2. 排菌状態

術前の排菌状態は塗抹陽性57例（64.7%）、陰性29例（32.9%）、不明2例。術前の培養では陽性71例（80.7%）、陰性14例（15.9%）、不明2例であり、全体の約15%が何らかの臨床症状または異常陰影のため手術がなされ、術後に診断が確定したものであった（表1）。

3. 菌種

M. avium-complex が72例（80%）、*M. kansasii*：4例、*M. chelonae*, *M. fortuitum*, *M. abscessus*, *M. scrofulaceum* が各1例、不明：9例であった（表2）。

4. 術前化学療法

術前に化学療法が行われた症例が72例（81.8%）、化学療法なし15例（17%）、不明1例であった（図2）。

術前の化学療法期間は、3ヶ月以内22例：（25%）、6ヶ月以内7例（8%）、1年以内11例（12.5%）、1年以上31例（35.2%）であった（図3）。

5. 病巣の性状

病巣は右57例、左17例、両側13例。病巣の型はI型5例、II型54例（62%）、III型2

0 例、IV型 8 例で、空洞型（I+II）59 例（67.8%）、非空洞型（III+IV）28 例（32%）であった。拡がりは 1-39 例（44.8%）、2-42 例（48.2%）、3-6 例（6.8%）であった（表 3）。

6. 術式

1 葉切除 47 例、2 葉切除 4 例、全摘術 6 例、部分切除 5 例、区域切除 10 例、1 葉切除+部分切除 6 例、1 葉切除+区域切除 3 例、2 葉切除+部分切除 2 例、区域切除+部分切除 1 例、嚢胞内ドレナージ 1 例であった（表 4）。

7. 合併症

なし 71 例（80.7%）、有 16 例（18.1%）、不明 1 例。

有りの内訳は、肺瘻 6 例、膿胸 4 例、ARDS2 例、後出血 1 例、腎不全 1 例、肝障害 1 例であった（表 5）。

8. 予後

再発なし 66 例（75%）、あり 11 例（12.5%）、不明 11 例（12.5%）であった（表 6）。

【まとめ】

肺非結核性抗酸菌症の外科療法が行われた症例には男女差は認められず、50 歳代を中心とした症例であった。術前に菌が同定されなかった症例が 15%であった。空洞を認めた症例が約 7 割であった。病巣の拡がりは 1 と 2 がほぼ同数で 45%を占めた。術後合併症は約 20%に認められ、治癒率は 75%であった。

今回のアンケート集計は年度毎のばらつきが認められ、成績に記すことができなかったが、近年の手術症例では胸腔鏡手術の頻度が増加傾向を示した。また、術前術後にクラリスロマシシンが使用される症例が近年では増加する傾向が認められた。

非結核性抗酸菌症に有効と考えられる薬剤の出現及び胸腔鏡手術の普及が今後非結核性抗酸菌症の手術適応に変化を与える可能性が考えられた。

～研究協力施設～

結核予防会複十字病院、国立療養所近畿中央病院、府立羽曳野病院、国立療養所南横浜病院
国立療養所晴嵐荘病院、国立国際医療センター、国立療養所刀根山病院、聖隷三方原病院
都立府中病院、国立療養所神奈川病院、国立療養所東京病院

IV 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻	ページ	出版年
Nakatani H, Fujii N, Mori T, Hoshino H	Epidemiological transition of tuberculosis and future agenda of control in Japan: results of the Ad-Hoc National Survey of Tuberculosis 2000	Int J Tuberc Lung Dis	6	198-207	2002
佐々木結花 山岸文雄 森 亨	血液透析患者における結核発病の現状	結核	77	51-59	2002
宍戸眞司 森 亨	特別養護老人ホームにおける結核予防対策および結核発病調査	結核	77	341-346	2002
石原美千代・笹井敬子・清古愛弓・森 亨他	結核治療における Universal DOTS の有用性に関する研究	公衆衛生	66	878-883	2002
森 亨	社会と結核	結核	78	95-100	2003
沖縄県結核サーベイランス検討委員会	沖縄県の結核患者管理における結核菌遺伝子型同定の有用性	日本公衆衛生雑誌	50	339-348	2003
藤井紀男、中谷比呂樹、森 亨	我が国の結核医療の現状と問題点ー平成 12 年厚生労働省「結核緊急事態調査」の分析ー	日本救急医学会雑誌	13	123-132	2002
森 亨	BCG 接種の副反応	小児科	43	569-578	2002
森 亨	今後の結核対策における BCG 接種のあり方	日本公衆衛生雑誌	49	717-719	2002
森 亨	結核対策・研究の最新動向	日本臨床	61	153-159	2003
森 亨	結核対策と対策技術の革新	別冊医学の歩み. 呼吸器疾患 State of Arts2003-2005 医歯薬出版		374-377	2003
Mori, T	Background of the Tuberculosis Emergency Declaration	Japan Medical Association Journal	46	127-132	2003

20020608

以降P507－P610は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので
P505「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください